

令和5年度第2回埼玉県利根地域保健医療協議会 議事概要

1 日時 令和6年3月14日（木）18時30分から19時30分まで

2 場 所 Zoom方式

3 出席者

- ・協議会委員 19名（欠席5名）
- ・一般傍聴人 2名

4 議事概要

(1) 議事1「埼玉県地域保健医療計画（第8次）案について」

資料1に基づいて、埼玉県地域保健医療計画（第8次）案について保健医療政策課職員が説明を行った。本計画案は、現在開会中の令和6年2月定例会に議案として提出されており、議決をいただいた上で、圏域別取組については当協議会で令和6年6月頃には決定していただきたいと考えている。

【主な質疑・意見等】

・第5部「医師の確保」の中で、診療科偏在を解消するため医学生向け奨学金制度の活用等による医師確保を図るとあるが、特定の診療科に対して、産科とか小児科といったところに出される予定があるのか伺いたい。（行田市）

→診療科偏在部分につきましては、産科、小児科を重点取組としている。奨学金の対象がどこまでかというところは、その奨学金を受けていただく上での条件を付して交付している。医療人材課が所管しているので情報を確認していただきたい。（保健医療政策課）

(2) 議事2「圏域別取組について」

資料2-1、資料2-2に基づいて、圏域別取組案について、幸手保健所職員が説明を行った。

【主な質疑・意見等】

(脳卒中医療)

・脳卒中医療について、【主な取組及び内容】の一番下のポツについて「在宅医療において他職種が専門的な知識を生かしながらチームとして」とあるが、実施主体に歯科医師会とか薬剤師会が入っていないのはなぜか。在宅医療を支える上では、こういった専門職の方も入られる思ったのでお聞きしたい。（行田市）

→実施主体については、前回の取組をそのままトレースしているが、「歯科医師会や薬剤師会を主体として入れた方がよい」ということであれば、当該関係団体の委員の御意見を伺った上で検討したい。(幸手保健所)

→【現状と課題】には、「リハビリテーションが大切です。」とあるので、リハビリ専門職の方々も実施主体に入れるべきかどうかご検討いただければと思う。(行田市)

(在宅医療の推進)

・在宅医療の推進について、【主な取組及び内容】の上から3つのポツである在宅医療を支援する連携体制の推進、患者・家族を支える他職種協働の推進、ICTを活用した在宅医療・介護連携ネットワークシステムの活用について、実施主体に看護の方が入っていないが、行田市においても、訪問看護を積極的に取り入れながら在宅生活を支えていく支援をしていきたいと思っていたので、実施主体の方に看護協会を入れてはどうか。(行田市)

→実施主体については、前回の取組をそのままトレースしているが、「看護師協会を主体として入れた方がよい」ということであれば、看護協会の委員の御意見を伺った上で、加えるか否か検討したい。(幸手保健所)

(健康づくり対策)

・健康づくり対策の【主な取組み及び内容】の2つ目のポツである禁煙支援・受動喫煙防止対策の推進について、「未成年の喫煙防止を推進します。」と書いてあり、行田市において、医師会の御協力をいただいて喫煙防止取り組んでいるが、実施主体に是非学校を入れていただきたい。また、【主な取組及び内容】に、そもそも歯科保険対策が入っていないのとアレルギー疾患対策も入っていないので、これについての考え方をお聞きしたい。(行田市)

(親と子の保健来策)

・親と子の保健対策について、1つ御提案として【施策の方向(目標)】に「不妊・不育症に関する支援を進めます。」ということで県も経済的な女性の支援をしているが、経済的な支援も重要であるが、若い頃からの健康を意識した生活習慣を身につけるとか低体重を気にしてダイエットをしてしまうとかそういった部分が、問題ではないかと考えており、県もプレコンセプションケアという考え方をホームページで周知している。【主な取組及び内容】の中の、子供の心の健康に関する相談や情報提供の充実、関係機関の連携強化における子育て支援について、若い頃からの健康づくりという視点も入れられたらと思うので、やはり関係機関には学校も入っていただきたいので、御検討いただければと思う。(行田市)

→プレコンセプションケアについて盛り込むことを検討したい。

(感染症医療)

・感染症医療について、この間のコロナの時に感じたが、最初の患者発生のときはまず国が対応して最後の予防接種事業になって市町村事業という形になっていた。最初の国あるいは県レベルの時にちょっと市町村が、距離を取って見ているという感じであった。初期段階から、市町村が積極的に参加して取り組んでいただけるといいなと思い、この取組の中に入ってくるとありがたいと思うが、県保健医療部ではどう考えるか。

(高木会長)

→住民に近い市町村の皆さんのお力をいただくというのは、非常に大事で、特に相談体制で電話がつながらない中、市役所などのお力添えがあるとありがたい。いずれにしても何か危機が発生したときに相談できる体制というのを御検討いただくと厚みが増すということは痛感した。(保健医療政策課)

・麻疹のことであるが、令和4年度の第2期が92.8パーセントという数字が出たので、ちょっと低いと思った。保育園とか幼稚園とかも市町村と保健所は把握していると思うので、そういうところにもちゃんと行って積極的に受けるようお願いしたい。

(加藤委員)

・感染症医療の【主な取組及び内容】の1つ目の感染症対策の強化の医療機関や市町などの関係機関と連携し相談、診療・検査、医療・療養体制を強化するということについて、新型コロナの対応を振り返ると行政としては、在宅療養をされている方の支援やワクチンの配布など、そういったことはしており、また相談も行っており、こういった連携体制を強化することは、もちろん賛成である。一般的な感染症を想定して書いているとすれば、全ての感染症に対してこういった体制を作るわけではないので、ちょっと違和感がある。1つ目のポツについては、新興感染症についてはと入れた方がいいのではないか。ここで想定している感染症対策の推進が新興感染症なのか、一般的な感染症も含めて相談、診療・検査、医療・療養体制を強化するとしているのか御説明をお願いしたい。(行田市)

→基本的には新興感染症対策を念頭に置いており、一番目のポツについては新興感染症、いわゆる新型コロナのようなパンデミック状態になるような感染症ということで、記載の方を修正させていただきたいと思う。(幸手保健所)

→先ほど、加藤先生からお話があった、麻疹の予防接種率については、全県のデータしか出ていないので、埼玉県の数というデータということでお示しをしている。3番目のポツに、いわゆる定期予防接種率の向上ということで、恒常的にその接種率を上げなければいけないという対策もあり、未摂取者の把握、勧奨を行うといった内容を追加したいと思う。(幸手保健所)

→コロナの発生時のときには県から「PCRセンターを設置するように」という要望と指導があり、その時、市町村は風評被害を受けるということでみんな逃げた。現実には起きた場合、中心となる司令塔が必要である。(能美委員)

→県の中でも本課と保健所との関係がギクシャクしたり、市町の皆様の御協力もいただけたり、いただけなかったりと様々であったので、今後まさにその司令塔について検討しなければならないと思う。(加須保健所 鈴木委員)

(3) その他

次年度委員及び協議会開催について、幸手保健所職員が説明を行った。

以 上